

院長先生が入院…どうしたらいい？

少し前のことなのですが、クライアントであるH先生が検査の結果、手術が必要ということになり(幸い、大事に至るようなことはありませんでしたが)、入院を含めて復帰までに1ヶ月以上を要するという話となり、その間、医院は休診にするのか、代診を立てて診療をするのか、患者さんへの説明はどうするのか…等々、色々ご相談頂いたことがありました。

クリニックの多くはドクター1名と数名のスタッフで診療をされており、院長先生の身に何かあると、たちまちクリニックは機能しなくなってしまうのですが…、実は、この**リスクに対してヘッジをしっかりと考えておられる院長先生は多くありません。**

起こる可能性は低いかも知れませんが、病気やケガで入院してしまうことは誰にでも起こり得ることですので、万一の場合どうするかは、やはり考えておかなければいけません。

今号では、経営におけるリスクマネジメントの一環として、院長先生が病気やケガで働けなくなった場合、どうすれば良いかをご紹介させて頂きたいと思います。

【収入がなくても固定費は必要！】

院長先生が働けなくなった場合でも固定費は掛かります。クリニックの家賃や光熱費、人件費、リース料など様々な支出、また、借入金がある場合はその返済も必要です。

診療報酬は2ヶ月遅れで入金されますので、2ヶ月後には収入が激減した状態が顕在化することになります。

従いまして、まずは、普段から税理士さんに、1ヶ月あたりの支出は大体どの程度なのか？きっちりと教えてもらっておく必要があります。また、常に2~3カ月分の運転資金は必要ですので、「資金繰り分析」は必須です。

H先生には、毎月「**損益状況・納税予想**」・「**経費診断**」・「**資金繰り実績・予想**」等々をお伝えしていたので、少なくとも、月々どれぐらいの支出になるか、資金はどうなるかということは、すぐに把握して頂けました。

【いざという時のための所得補償保険】

次に、H先生は加入されている「**所得補償保険**」をチェックし、月々幾らの保険金が出るのか確認されました。開業当初、資金に余裕がなく保険料を抑えたプランでしたが、資金に余裕が出来た数年前、ご自身に合ったプランに変更されていたため、今回、大いに役立つことになりました。

所得補償保険は、ご存知の通り就業不能になった場合に保険金が支払われる保険ですが、**所得水準に見合ったプランにしておかなければ、イザという時に役立つ可能性**がありますので、今回を機にチェックされることをお勧めします。

【普段から人脈作りも大切です】

今回、H先生は休診してしまうと、患者さんが減ってしまうかも知れないと考え、何とか代診医を探すことにしました。

当然、すぐに見つかる訳ではありませんので、少しでも可能性を広げるため思いつくりの多方面に声を掛けて頂くようお願いし、もちろん、弊社も全面的にご協力しました。

複数の人材紹介会社への依頼、医師会への相談、ご友人や先輩・後輩、大学の医局…等々。

結果、ご友人の協力と医局からの派遣で、フル稼働ではないものの、当面は診療が出来る目途が立ちました。

今回は、H先生が普段から色々な方とお付き合いされていた「**人脈**」が功を奏しました。もちろん、今回のような事態を想定してお付き合いをされていた訳ではないですが、「**何かあったら(お互いに)相談し合う**」という関係を築いて来られたことが、結果的にはリスク回避に繋がったと言えるでしょう。

【出来る限りの「情報提供」をしてスムーズにお任せ！】

それでは、いざ、代診医の先生にお願いするに際し、まずスタッフさんたちに対して、① **H先生がお休みする期間**、② **その間に代診をお願いしたこと**、③ **代診の先生の情報(どのような先生なのか)**、等々を丁寧に説明し、とにかく混乱しないように冷静に対応して頂けるように腐心・対応しました。

突然、院長先生が変わることによって、戸惑いや不安が起こりますが、「**この状態がいつまで続き、その間はどうか**」を明確にすることによって鎮静化に成功しました。

次に、応援に入って下さる先生方には、出来る限りですが、注意が必要な患者さんの情報を提供しました。やはり、代診医の先生方からすると、患者さんのことで、「聞いていない」・「知らない」とはなかなか言えませんし、慣れない環境で診療する訳ですので、少しでも安心して診療して頂けるように配慮し、加えて最も大切な「**スタッフ情報**」も事細かにお伝えしました。誰がどのような人で、普段どのような働きをして何を頼むことが多いか等、知らないスタッフに囲まれて診療する代診医の先生方はこの情報が非常に助かったとのことでした。

最後に、患者さんに対しては、POPやブラックボード、HP等、ありとあらゆる媒体を駆使して案内しました。また、HPには先生方のシフト表も掲載するようにしてもらいました。

今号は以上ですが、いかがでしたでしょうか？金銭面も大切ですが、休むとなると実際の「現場」での対応が重要です。イザという時のために、是非参考にして頂ければ幸いです。